

対象	小学校低学年以上
教科	特別活動 防災教育
該当 単元	小学1年 「いのちを たいせつにしよう」 ・じしんのこわさを まなぼう
教科書	
掲載日	2015.4.15. 朝刊 愛知総合版

# 地震防災 親子で学ぼう



ジャッキを使ってがれきにはさまれた人形を救出する体験コーナー。名古屋熱田区の名古屋国際会議場で



地震体験車でテーブルをしっかりとつかみ、激しい揺れに耐える親子。名古屋市北区の黒川東中日ハウジングセンターで

東日本大震災  
同じ揺れ体験

名古屋

ガチャピンを  
ジャッキで救出

熊本地震から二年になつた十四日、防災意識を高めてもらおうと、県と中日ハウジングセンターが、名古屋市北区の黒川東中日ハウジングセンターで「春の防災フェス」で「春の防災フェス」で、体験した人たちは体験車に備え付けている机にしがみつき、激しい揺れに耐えていた。県の担当者は家具の転倒防止対策のチラシも配布。タンスや棚は「字金具」や突っ張り棒で固定したり、家具の下にさしこむストッパーを設置することを呼び掛けた。県の防災危機管理課の石川盛久さん(画)は「南海トラフ地震はいつきてもおかしくない。被害を少しでも減らすため、家具の固定など、できることから始めてほしい」と話した。

防災イベント「親子で楽しく学ぶ防災・減災」が十四日、名古屋熱田区の名古屋国際会議場で開かれた。全国労働者共済生活協同組合連合会(全労済)愛知推進本部と創立六十周年を迎えた愛知労済が主催。全労済の組合員が招待され、親子連れでにぎわった。会場には防災を題材にしたワークショップが並んだ。災害現場のドローンを役割を演じるブースになったボンキッキ(軽クワ)を使った体験、ジャッキを使って救出する体験ブースなどがあつた。訪れた人たちは楽しみながら、防災意識を高めていた。ジャッキによる救出体験をした名古屋市長の小学五年生、沢井陽人くん(こ)は「ジャッキを使えば意外と軽く物を持ち上げられるので、人を救出できる」と話した。(小沢慧)

問1: 右の写真を見て下さい。女の子はテーブルをしっかりとつかんでいます。地震

体験車が揺れているからです。震度はいくつだと思いますか。

- A : 5強      B : 6弱      C : 6強      D : 7弱

問2: 左の写真を見て下さい。ガチャピンを助けるにはどうすればよいですか。

- A : 頭をひっぱる      B : 長い机(がれき)をどける

問3: 左の写真のテーブルは、実際の地震の時に崩れたり落ちたりしてくるがれ

きの代わりに使っています。この体験会でガチャピンを助けるために使った

のは何という道具ですか。その道具があるとどんな役に立つのでしょうか。

道具の名前( )

( )物を持ち上げられる。